

全財務局 管内経済情勢報告

	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回との 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるなか、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
財務局名	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回との 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>持ち直しつつある</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	↶	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、緩やかに持ち直している。
東北	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械が供給制約の改善に伴い持ち直している一方、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから引き続き弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
関東	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、物価上昇の影響はみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに回復しつつある。生産活動は、生産用機械が増加しているものの、電気機械、輸送機械などが減少しており、一進一退の状況にある。雇用情勢は、改善しつつある。
北陸	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、ドラッグストア販売が拡大しており、百貨店・スーパー販売が持ち直していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが下げ止まっているほか、化学が持ち直しているものの、生産用機械が拡大の動きに一服感がみられることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
東海	<u>緩やかに回復している</u>	<u>一部に弱さがみられるものの、回復している</u>	↶	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一部に弱さがみられるものの、自動車関連を中心に回復している。雇用情勢は、緩やかに改善している。
近畿	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	→	個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
中国	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	→	個人消費は、外出関連消費が好調なことや、猛暑による夏物商品の需要の増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、海外向けの需要が回復しないことなどから、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
四国	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も回復しつつあることから、全体としては持ち直している。生産活動は、電気機械が弱含んでいるものの、汎用・生産用機械が持ち直しているほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
九州	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	↶	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、経済活動の正常化の動きが続いていることから、回復しつつある。生産活動は、高水準を維持しているものの、海外経済の減速などの影響から一部に弱さがみられており、このところ横ばいの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
福岡	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	→	個人消費は、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
沖縄	<u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	↶	個人消費は、緩やかに回復している。観光は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

(注) ※ 5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。
 ※ 下線部が基調判断。